



ようこそ！共栄へ！

いつも共栄を「鼻頂」にしてくださいさるお客様の皆様こんにちは！

共栄で今一番幸せな男、郷津です。朝晩と冷え込みが厳しくなってきました。芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋、行楽の秋、様々な秋がありますが、やっぱり食欲の秋ですね。食べ物美味しい季節ですが、くれぐれも食べ過ぎにはご注意ください。

9月10月ではたくさんのお客様に共栄の本社にご来社いただきました。遠くは東京からお越しくださいました来ていただいたお客様には、普段見ていただけなお棺の製造過程を見学していただくのですが、大変好評を頂いております。普段使って頂いているお棺はどのようにしてできているのか、興味津々でご覧いただきました。私達営業部は普段お客様とお話する機会はありませんが、現場の社員はなかなかお会いする機会はありません。普段、電話口や伝票上でしか知らないお客様に実際会社に来ていただいて、会社を見て頂けるといのは私達にとっても大変気の引き締まるものです。これからもより良い商品を作っていくと思いますので、何とぞ「鼻頂」のほどよろしくお願致します。

工場見学のお話をさせていただきましたが、この新聞でも少しだけどうやってお棺が出来ていくのかを紹介したいと思います。弊社は1970年からお棺メーカーとして自社でお棺の生産ラインを持っております。輸入品が多い中自社工場で生産できることは共栄の大きな強みであると同時に、誇りでございます。この場で全てはご紹介できませんので、今回はお棺の底を打つ工程をご紹介致します。お棺の底なんて普段は見ませんよね。今度機会があれば、弊社の棺を裏返して底を見ていただきたいのですが、四隅と真ん中にスタンプが押してあると思います。このスタンプは組み立てする人間ごとにマーク



社員紹介



梅澤 輝男 (うめざわてるお)

総務部長(共栄の守護神)

血液型AB型 射手座

好きなものは、お酒全般、牛肉

40年前は野球をしており、バリバリのスポーツマンでした。

共栄の専務の野球の監督さんです。

→ 編集者郷津(27歳) 近々結婚するらしい この似顔絵はご来社頂いたお客様に描いていただきました。



が決まっているのです。しっかりと責任を持って底を打ちましたよという確認のために最後にこのスタンプを押します。真ん中のスタンプは2重チエツクの意味で内装をした人間が最終的に確認してスタンプを押します。底の釘の打ち忘れがないように必ず2度のチエツクを行ってから出荷しているのです。また底板も9ミリのものを使っています。一般的には6ミリの板が安い為使われることが多いのですが、弊社は創業以来9ミリの底板を使い続けています。最後に故人様に入っていたたく大事なお家ですので万が一があつてはならないという気持ちで9ミリの底板を使い続けています。目に見えるところだけでなく底板にもこだわりを持ってお棺を作っています。まだまだお棺について書き足りないことばかりです。反響がありましたら、これからもご紹介していこうと思っておりますので、応援よろしくお願致します。

おすすめ商品の「案内」

TW安曇野

共栄の葬儀に対しての思いを表した商品「安曇野」です。「用」するという意識が葬儀の場からなくなりつつあるのではないかと、という思いから作成した商品です。さらに10月より、新カテゴリー「エーション」が追加されました。ブラウン、ホワイトの2色が追加され合計3色展開となります。詳しくは各営業マンがお知らせに参りますので、何なりとお問い合わせください。



TW-BR
● 材質 杉
● 1930 (L) × 570 (W) × 460 (H)
● 重量 19kg
● 1855 (L) × 495 (W) × 425 (H)